

高知における池谷・関彗星の合同観測

池 幸 一*

高知市附近で行なった、池谷・関彗星の合同観測につき報告させていただきます。

池谷・関彗星に対して当地では、関氏・海老塚氏と私の三人で待機致しておりました。そのため、関、海老塚の両氏は、日本光学 50 mm, 15 倍双眼鏡を新たに購入するなど、力を入れておりました。

某新聞紙上に観測がとだえはじめたとの記事が出た頃の(10月)15日は関氏は自宅の屋上にて、1.5等と観測しました。私は最後の写真をと思い、35 mmカメラF 1.9 で4時15分より5時18分まで10枚程、各露出20~30秒の三脚固定にてシャッターを切りましたが、全部薄明のため写っておりませんでした。(場所は観測所附近の田の中にて)

16日、関氏は自宅にて眼視に失敗。私も昨日にこりこりして写真は断念し、仁淀川対岸の堤防上より12.5 cm 屈折24倍にて地平線附近を搜索。5時19分やっと山の頂より30'ほど上に光度1等と見ました。約9分間追い、5時28分光度比較のため望遠鏡をずらせ、約3分後に元の位置を見た時は、もう見えなくなっておりました。

17日は吾川郡春野村の春野平野西端に移動して、5時00分より6時30分まで見ましたが失敗、関氏も失敗。

18日も同じ場所にて同時間観測し、同じく失敗。

19日は休止。

20日。最後かも知れぬと思い、又尾の端でも出ておらぬものかと約1時間搜索したが、何も認め得ず、失敗。

21日。平地では可能性が薄く不安となり、須崎市郊外の高岡郡にある幡蛇ヶ森(バンドガモリ)海拔786mの頂上に私一人で5時00分より待機、雲海の上を捜すこと約30分、6時04分やっと彗星を見つけました。光度約マイナス6等(明るい彗星の経験なく、不確定)と見ました。直径は核らしき光輝部分約5', コマと思われる部分は約10'近く見えました。尾はあるようにも、またないように見え、ちょっと不明瞭でした。約1分半ないし2分経過後、急に雲の中に入り、やがて(6時13分)太陽が現われはじめたため、観測困難になりました。太陽との距離は約2°~2.5°と思われるました。関氏に報告のため急いで下山。ふもとの公衆電話にてNHKスタジオ在の関氏に報告後帰宅。観測器械は前記の屈折鏡で投影板の中央を丸くくり抜いた装置を持って、望遠

鏡とも関氏宅へ。11時30分より関氏の88 mm 屈折鏡と2台で投影及び眼視を行なうも、日没までついに確認できず、失敗しました。

其の夜、乗鞍や倉敷等で成功されたというニュースをききながら、明朝の観測について協議、万全を期して合同観測と決定。場所も各所を検討の上、私の今朝登った幡蛇が森へ行つてはという主張が容れられ、決定、関氏も15日を最後に一度も見ておらず必ず捕えたいと切望。全員真剣な気持で帰宅。

22日。全員2時30分出発。距離約60 km 隔てた幡蛇が森に登山。ここには私には昼間は度々登ったこともあり、深夜にも南十字星のγ星撮影テストのため、単身登頂の経験もあったので、地理的条件には絶対の自信がありました。

5時00分到着。直ちに観測体制に入る。器材は関氏、海老塚氏共、前記ニッコール50 mm, 15倍双眼、私は12.5 cm 屈折鏡、24倍、いずれも3脚なしの鏡筒のみなので、立木の又を利用するため、各々適当な樹木を求めて分散、5時30分より観測開始しました。天気快晴。

6時05分、雲海の上に彗星らしきものを私が最初に発見、見る間に折からの(その時は地平線下の)朝日を下から受けて、オレンジ色に輝き、何と美しい事でしたか。尾の長さは1度位。思わず“オーイ見えたぞー”と呼んで知らせました。“ドレドレ、どこの方角に”と集って“フォーム”。各人ただちに愛機にて相前後して確認。やがてオレンジから黄、そして白色と変わり、やがて太陽が現われて、やや薄れながら雲に入ったり出たり、約25分間ほど観測して、太陽がまぶしくなったため見失い下山。光度は昨朝より1等暗く、マイナス5等と見ました。帰途関氏に“眼が良い”といわれて少々得意になっていました。

23日、前日の場所は条件は満点ながら、若干遠いので、高知市内北方の“コウの森”に変更。メンバー、器材は同じ、5時30分より観測開始。6時00分頃、関氏が発見。“見えた!”と叫びながら、又消えたと報告。やがて又見えたが消滅。結局3分間の間で、関氏のみが約10秒ないし15秒確認。他の2人は場所が初めての場所のため、出現方向が不明のため、あまり広く搜索しすぎて、チャンスを逃して帰宅。関氏の見積り光度はマイナス3.5等。

本日で一応合同観測は終了し、各自、自宅にて行方を追跡することといたしました。

* 日本天文学会会員